

5 校内研究・研修

(1) 研究主題

教科等	研究主題	指定区分 ・指定内容	「読み解く力」 との関連
全教育課程	彦根市立佐和山小学校 全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現 ～「つながる」授業で目指す「自立」と「共生」～	なし	○

(2) 主題設定の理由

①社会的背景

デジタル化やテクノロジーの急速な進化、新型コロナウイルスの感染拡大等先行き不透明な「予測困難な時代」などにより、世の中は、私たちの想像をはるかに上回る速さで変化し続けている。特に、昨今の新型コロナウイルス感染症感染拡大は、私たちの生活、行動、価値観にまで、甚大な影響を及ぼすこととなり、学校教育の在り方や学校の役割についても再認識されることとなった。特に、これまでの日本の子どもたちは幸福度・自己肯定感や当事者意識が低いと指摘されてきたが、こうした意識を高めていくにはどうすべきか、いかに一人一人の自立と社会における多様性を高めていくか、想定外の事象と向き合い対応する力や先の見えない未来を切り拓く力をどのように涵養していくかは、改めて考えるべき課題であるといえる。こうした中、令和3年6月教育再生実行会議 第十二次提言「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」において、一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ（ウェルビーイング）の実現について提言がなされた。OECD の国際報告書では、” well-being ” を「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要な、心理的、認知的、社会的、身体的な働き（functioning）と潜在能力（capabilities）である」と定義している。学校教育においては、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。自他を尊重する心、人とより良い関係を築くコミュニケーション能力の向上はもちろん、目標の達成に向けて粘り強く行動する力や、人と協力して解決に向かう協働性など（いわゆる「非認知能力」）の育成は一層重視されるようになり、令和4年度には、本市においても「教育大綱 心を磨き、可能性を引き出す彦根教育」として学びの提言がなされた。

また、先にも示した教育再生実行会議では「ニューノーマルにおける教育の姿」として、ウェルビーイングの実現に加え、データ駆動型の教育への転換や新たな学びに対応した指導体制等の整備について求められている。一人一台端末の活用の推進や個別最適で協働的な学びの実現を通して、どのような状況においても子供たちの学びを確実に保障することが求められている。

私たちは、これまでの教育観を見つめ直すとともに、新たなニーズや教育環境の変化を前向きに受け止めながら、子ども達に今求められる力を育む教育を推進しなければならない。子どもの学びを支援する教職員として、学び続けることが求められている。

②これまでの研究

本校では、令和元年より校内研究のテーマを「これからの時代を生き抜く上で必要な力を育む佐和山教育」と設定している。副題を「学びのプロ・教えるプロ集団の育成」（１年目）、「子供が自分から話したくなる聞きたくなる授業作り」（２年目）、「読み解く力」を発揮して学び合う姿を求めて」（３年目）として、子ども達に今求められる力を育むための教職員の指導力向上を目指して研究を進めてきた。

また、令和４年度からは「全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現」をテーマに設定し、１年目は「読み解く力を発揮し、あったか魂でつながる授業作りを目指して」を副題として、子ども一人ひとりの個性を大切にし、生きる力を育むことを目指して研究を進めた。

③本年度の方向性

滋賀の教育大綱（第４期滋賀県教育振興基本計画 令和５年１２月）に、「夢と生きる力を育む」「学びの基盤を支える」とあり、「確かな学力の育成」や「主体的に社会へ参画できる資質能力を育む」ことや「子どもたちが安心して快適に学べる環境づくり」について示されている。子ども一人一人が自分の身近なことから他者のことや社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、自ら主体的に考え行動することができるようになるためには、画一的な一斉授業から脱却し、子どもが学びの主体である授業へと変えていく必要がある。正解のない変革の時代、目の前の子どもたちの「事実」を見て考え「この子たちにとって今、何が必要か」「この子たちが将来社会に出るために必要な力は何か」を全職員が常に意識をして指導することが大切である。多様な価値観や考え方を大切にし、多様な他者と協働していく力は、自立を目指す上で必要不可欠であるといえる。こうした力の獲得により、多様性に柔軟に対応しながら他者と共生する子どもの姿を目指したい。

また、前述のとおり「ニューノーマルにおける教育の姿」を目指して、これまでの実践とICTとの組合せを検証していく必要があると考えることから、本年度は、これまでの研究テーマを継承し、「画一的な一斉授業からの脱却」「個別最適で協働的な学びの実現」「考え抜く力の育成」をキーワードに、教職員の授業改革・指導力向上を目指して、研究を進めることとする。

（３）研究の内容と方法

①前年度までの流れを共通理解する。

「読み解く力」「これからの時代を生き抜く力」「令和の日本型学校教育」

②研究のキーワードについて、教職員で共通理解する。

「画一的な一斉授業からの脱却」「個別最適で協働的な学びの実現」「考え抜く力の育成」
☆研修を行う。【＊随時】 ICT活用研修、「読み解く力」研修 など

③各自、本年度の研究教科を明らかにし、研究チームを作る。

- ・学年団で研究チームを作り、授業作りの視点を定める。
- ・「プロの教師になるために心掛けること」として、各自の具体的な行動目標を設定する。

④授業研究・授業参観を行う。

- ・教材研究、授業づくりは学年部で効果的に行い、学力向上担当・有志も交える。
- ・研究チームで授業を参観し、事後研究会をもち研究の視点での分析を行う。

- ・研究チームから1本は全体での授業参観とし、他の研究チーム同士の交流、共有の場とする。
- ・成果を共有し、各自の実践に活かし検証を重ねる。

⑤グループで研究成果を整理し、研究発表大会を行う。

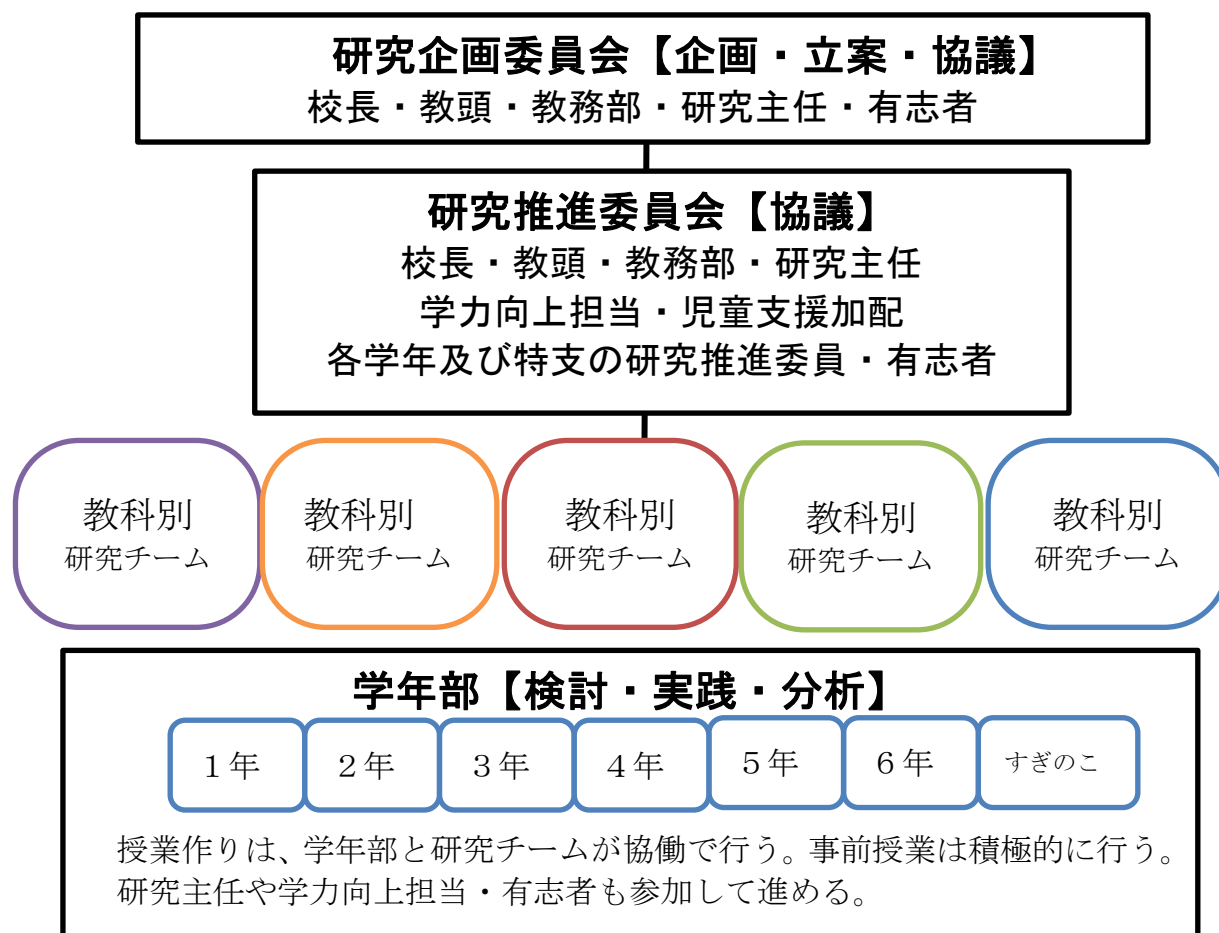
(4) 研究・研修計画

月	校内研究	職員研修
4	5日【第1回全体会】 今年度の方向性確認	学校紹介 「読み解く力」授業づくり研修
5	22日【第2回全体会】 【第1回授業研究会】 研究のキーワード共有 「目指す子どもの姿」「読み解く力」「令和の日本型学校教育」	総合教育センターサテライト研修 「ICT活用研修」
6	26日【第3回全体会】 【第2回授業研究会】	「個別最適な学びとは」 (特別支援教育から学ぶ)
8	21日【第4回全体会】 研究チーム中間報告会 ・これまでの研究の報告、成果と課題を他の研究チームと交流しアドバイスをもらう。 ・在籍研究チームでこれからの計画と方針を確認する。 全国学力学習状況調査の結果から	校内研修 学力向上
9	11日【第5回全体会】 【第3回授業研究会】	総合教育センターサテライト研修 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりについて」
9	13日 学ぶ力向上学校訪問	
10	30日【第6回全体会】 【第4回授業研究会】	
11	13日【第7回全体会】 【第5回授業研究会】	
11	27日【第8回全体会】 【第6回授業研究会】	講師による講話
1	29日【第9回全体会】 【第7回授業研究会】	
2	12日【第10回全体会】 校内研究発表大会	

2	12日【第11回全体会】 校内研究発表大会 次年度の研究構想	
---	--------------------------------------	--

（５）校内研究体制の概要

校内研究体制の概要



（６）過去５か年間の研究主題および指定研究歴（市町教育委員会の指定を含む。）

- ① 令和元年度 これからの時代を生き抜く力を育む佐和山教育
～学びのプロ・教えるプロ集団の育成～
- ② 令和２年度 これからの時代を生き抜く力を育む佐和山教育
～子供が自分から話したくなる聞きたくなる授業作り～
- ③ 令和３年度 これからの時代を生き抜く力を育む佐和山教育
～「読み解く力」を発揮して学び合う姿を求めて～
- ④ 令和４年度 全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現
～「読み解く力」を発揮し、「あったか魂」でつながる授業作りを目指して～
- ⑤ 令和５年度 全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現
～「つながる」授業で目指す「自立」と「共生」～